

利用者にとって快適な施設・介護を提供

社会福祉法人 はしま

〒501-6273 羽島市小熊町2-750 TEL.058-394-1211
<https://www.shahuku-hashima.jp/>

設 立 ● 2000 (平成12) 年6月
代 表 者 ● 理事長 森川 貞秋
従 業 員 数 ● 174名 (男37名・女137名)

羽島市内で特別養護老人ホーム「寿光苑」「美輝苑」「光輝苑」や、北部デイサービスセンターなどを運営。「自らが利用したいと思う施設サービスの創造」を基本理念とし、利用者一人一人に適した個別援助の提供に努めている。

利用者
に提供
している
食事や
体操、
サービス
職員も
取り入
れるこ
とで
健康
づくり



- 感染症研修会での取り組み、新型コロナウイルス対策に応用
- 職員向けの食事は、減塩食・カロリーコントロール食・脂質制限食などにも対応
- 利用者向けの体操に職員も参加。楽しく体を動かせる習慣を確立



社会福祉法人はしまでは、設立当初から「職員の健康が一番」との方針で、健診を受けやすい環境づくりや、栄養バランスの取れた給食の提供を行ってきました。感染症対策についてはこれまでも力を入れてきたため、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策においても、これまでの蓄積を大いに生かすことができます。



年2回以上、 感染症研修を開催

感染症対策にこれまでも力を入れてきた社会福祉法人はしまでは、インフルエンザの予防接種については流行前の1カ月の間に4回ほど職場に医師に来てもらうことで全職員が受けることができています。費用は全額、法人が負担しています。

毎月第4金曜日に、介護職員や看護師、生活相談員ら8人が集まって感染症委員会を開催。委員会で出た話は職員会議でも共有されるほか、年に2回以上、委員会が主催する研修を実施することで、職

員全員が感染症についての正しい知識を得ることができています。研修はこれまで、嘔吐物処理方法やノロウイルスの対処法、インフルエンザ等の感染症発生時の対応などをテーマに開催。万が一、施設内感染が起こってしまったときに備え、以前から必要な備品を用意しているため、新型コロナウイルスの感染予防対策にも対応することができました。寿光苑の事務次長

の野村幸子さんは「感染拡大以降、コロナ関係の連絡が県高齢福祉課などからある度、臨時で感染症委員会を開催して検討するなど大変な面もありましたが、基本的にはこれまでの積み重ねが生きて

いて、マニュアルに多少手を加えただけで対応することができています」と話します。これらの取り組みにより、職員に感染症対策の意識が根付きインフルエンザにかかる職員は例年、ほとんどいないと言います。

希望者に 朝、昼、夕食を提供

夜勤のある職場であるため、食事に关しては希望者に朝、昼、夕食の3食を提供。利用者と同じ料理を食べることができ、一番注文数の多い昼食は、一食369円とリーズナブル。野菜は一食あたり120g以上使っています。当日の午前9時までに注文をすれば良



いため、普段は弁当を持参しているものの、急遽持つて来られなくなった場合などでも困ることはありません。

献立は毎月、給食の委託業者の素案を基に、管理栄養士が中心となつて開催している給食委員会で決めていきます。美輝苑の管理栄養士の大橋千晴さんは「栄養バランスはもちろん、季節感や見た目、シパトリリーの増加や、食べやすさにも配慮するほか、利用者や介護職員の要望を委員会で話し合った上で献立を考えています」と話します。

同法人で働く管理栄養士、看護師には、利用者だけでなく職員の健康を守るという意識が根付いているといいます。普段から「コミュニケーションを取りやすい雰囲気であることから、時間を取って相談の場を設けることもありますが、





職員の食事や健康の相談に気軽に
応じる姿がよく見られます。

職員も利用者と一緒 毎日体操

利用者が健康のために行っている
口腔体操やラジオ体操、機能訓
練体操などは、いろいろな時間帯
に行うことで、どの勤務時間帯の
職員であっても1日1回以上は参
加することができています。

口腔体操は、多くの高齢者施設
でも取り入れられている舌を動か
す「唇体操や、「パ」「タ」「カ」
「ク」の4文字を1文字ずつ複数回
発声し、口の周りの筋肉や、食べ物
を飲み込む力を鍛える「パタカラ
体操」を実施。「コロナ禍において
も、マスクの着用や、利用者には同
じ方向を向いて座ってもらうなど
の感染防止対策を取りながら続け
ています。事務室にいる職員は、聞

こえてくる口腔体
操の掛け声に合
せ、可能な限り参
加しています。

機能訓練体操

は、午後に行うし
クリエーションの
一環として行って
います。内容は介
護職員が日替わりで決めていま
す。職員も一緒に取り組むため、自
分たちも楽しめるような内容を考
えています。

さらに、体を動かす機会を提供
するため、毎年職員向けにスポー
ツ交流会を実施(20年度は中止)。
森川貞秋理事長も参加し、豪華景
品を用意することもあって白熱。
職員の子でも参加することがで
き、親睦を深める機会にもなっ
ています。19年度はボウリング大会
を行い、事前練習ができるように全
職員に補助券が配られました。

健診結果は 産業医にも共有

健康診断は勤務時間内に受けら
れるよう、各施設で実施していま
す。特定健診や特定保健指導の受
診率・実施率は100%を誇りま
す。健診結果は受診結果を職員に



通知するだけでなく、
産業医にも結果をみて
もらい、再検査が必要
な職員に対しては再検
査依頼書を発行する取
り組みを続けている事
ことから、病気の早期発
見につながっています。

健康に関する相談全
般については、各施設の健康保険
委員が担い、万が一、病気を患っ
てしまった際の傷病手当金の申請、
慶弔金、病気休暇の取得方法など
を提案しています。

過去には手術が必要な病気にか
かった若手介護職員に対し、診断
書に基づいて必要な期間取得す
ることができる特別休暇と病気休暇
を組み合わせ1カ月間の休暇を付
与。この間の給料は全額受け取れ
るようにし、治療費がかさむ中、経
済的な不安を少しでも和らげ、闘
病に専念できるように職場が一体と
なして支えています。

こうした取り組みの結果、「元
気でさえいれば長く働くことがで
きる」と職員の継続就労へのモチ
ベーションがアップしたり、65歳以
上の人の就職が増加するなど、人
材確保にもつながっています。

寿光苑の中島憲男施設長は「介

護は人が行うもので、職員一人ひと
りの健康維持が一番大切です。よ
り楽しく、安全にできるよう職員
同士知恵を出し合う風土が根付い
ています。体の健康はもちろん、心
の病にもかかることもないよう、上
司にも気軽に話せる雰囲気作り
にこれからも取り組んでいきたく
うと話しています。



利用者向けと同様に職員にも、減塩食・カロリーコントロール食・
脂質制限食などを提供しています。特別食であっても、普通食とほ
とんど変わらない見た目職員にも好
評です。管理栄養士や看護師が、職員か
らの相談に親身になって寄り添い、必要
に応じて特別食を勧めることもありま
す。資格職の協力も法人全体の健康づ
くりにつながっています。

Pick
up!